

調査概要

訪問インタビュー調査は二〇一九年九月一日～四日の四日間に青山学院大学・教授・樋田大二郎が行った。インタビュー対象者と場所は下記の通り。インタビュー内容はあらかじめ大項目を設定した半構造化されたインタビューであった。

下記のように多様な人にインタビュー調査を行ったが、その理由は地域では、地域の多様な要素が複雑に関係しており、一部を取り出して考察すること、地域の生態系の一部を取り出して地域を語ったり、地域の処方箋を書いたりすることは適切ではないからである。このことは、町立移管で地域学校協働を促進する奥尻町では特に当てはまるものと考えられる。

1. 調査対象者

『地域人材育成研究』第3号

- ① 奥尻高校 清水信彦校長、二〇一九年九月二日、於・校長室
- ② 奥尻高校 井上壮紀教頭、松原聡史教諭、清水信彦校長
二〇一九年九月二日、於・校長室
- ③ 奥尻高校生徒、北野宏志（仮名）、海野友美（仮名）
二〇一九年九月三日、於・奥尻高校図書館

『地域人材育成研究』第4号

- ④ 奥尻町教育委員会 桜花幸久事務局長
二〇一九年九月三日、於・奥尻町教育委員会
- ⑤ 奥尻役場水産農林課 満島章課長、横田稔主幹

二〇一九年九月三日、於・奥尻町役場

⑥奥尻役場地域政策課 幅口一路主幹、羽立仁主幹、

二〇一九年九月三日、於・奥尻町役場

⑦奥尻島観光協会 井口和弘事務局長、

二〇一九年九月四日、於・奥尻島観光協会

⑧カフェ・ファアロ 禊あゆみ氏、

二〇一九年九月三日、於・カフェ・ファアロ

※インタビュアーは地域人材育成研究会代表・樋田大二郎（青山学院大学）が行い、テープおこし後にインタビュアー対象者に本誌に収録する内容の確認および加筆訂正を行っていただき、さらに樋田が整理を行いコメントを付した。

※個人情報保護等の観点から、名称・地名等について、一部加工して掲載した。

※お忙しい中、インタビュアーにご協力いただいたみなさまに感謝いたします。

II. 高校訪問インタビュー項目

(1) 校長先生インタビュー

【1. 高校と魅力化（地域協働）の概要】

- A. 学校、生徒、地域の状況と特徴
 - B. 魅力化（地域協働）の取り組みの背景・経緯
 - C. 魅力化（地域協働）の取り組みの今後の課題と展望
- 【2. 地域人材】

D. 地域人材とはどのような人材なのか、具体的な資質・能力、意識はどのようなものであるのか。

E. どのような取り組みの中でどのようにして育てるのか。

F. 取り組みの実施中の取り組み検討資料として、地域人材の育成をどのような方法で評価するのか。

【3. カリキュラム・マネジメント】

G. 地域人材の育成は、どのような授業、どのような取り組みの中で行われているのか。

H. カリキュラム・マネジメントの体制・組織と実際の運営。効果的な運営のためのポイント。

【4. 地域との協働】

I. コンソーシアムの体制・組織と実際の運営。効果的な運営のためのポイント。

J. 個々の活動についての地域との協働の組織と具体的な運営

【5. コーディネーター、地域協働学習実施支援員】

- K. 配置の有無と役割
 - L. 高校内での位置づけ
 - M. 大学関係者、専門家との関係
 - N. 地域の人的資源の状況
 - O. その他
- (2) 魅力化（地域協働）担当教員インタビュー項目
- A. 背景と目的、誕生の具体的ななきっかけ、
 - B. 取り組みの組織・運営、
 - C. 現状、

- D. ご苦勞されている点、
- E. 生徒さんの成長
- F. 地域の変化・活性化
- G. 今後の計画、課題
- H. その他
- I. 資料があつたら、いただけますでしょうか。

- H. 今後の展望、
- I. (役場の人) 財政的支援、人的支援、
- J. その他

- (3) 実際に活動している生徒さんインタビュー項目
- A. 活動のやりがい、
- B. 自分が活動に参加して得たと思うこと、自分が変化したと思うこと
- C. 地域についての思い、
- D. 将来の地域との関わりかた、
- E. その他

- (4) 地元関係者インタビュー項目
- A. この地域の地域活性化の状況、
- B. 今後必要とされる地域人材とは
- C. 地域にとっての高校と協働する意味、
- D. あなたが、高校との協働に至った背景と経緯、
- E. 協働の体制・組織・運営、
- F. ご苦勞されている点、
- G. ご自身の変化